

会議議事摘録

会議名	2022年度第3回学校関係者評価委員会
開催日時	2023年3月19日(日曜日) 14:00~16:00
場 所	本校7階研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員:赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、伊藤由紀(高等学校関係者)、川井佳樹(くすり関連業界関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者) (計5名)</p> <p>②本校:橋本正樹(校長)、榑原幸之(事務局長)、村山由美(医療秘書科学科長・医療事務科学科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長・医療事務科副学科長)、川畑亮子(医療事務IT科学科長、診療情報管理科学科長、診療情報管理専攻科学科長)、結城久美子(くすり・調剤事務科学科長)、渋谷大樹(くすり・調剤事務科教員、教務委員長)、松田朗(介護福祉科学科長)、伊東由美(看護科学科長) (計9名)</p> <p>③委員会事務局:土屋瑠美子、土方雄太(計2名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計16名)</p>
欠席者	小林麻依子(保護者)、藤井寿和(福祉関連業界関係者)
配付資料	□資料1:2022年度第2回学校関係者評価委員会議事録案、□資料2:2022年度第2回委員会以降の主な経過報告 別添A:2022年度進路決定状況、別添B:2022年度教員研修計画・実績、別添C:2023年度生入学前指導プログラム、別添D:2022年度後期授業アンケート集計結果、□資料3:2022年度学校関係者評価報告書案
議題等	<p>1. 校長挨拶</p> <p>ウィズコロナからアフターコロナに向けて、日常生活を取り戻そうとする社会の動きが活発になってきている。本校では、先週水曜日の3月15日に、久しぶりに来賓、保護者をお招きして卒業式を決行した。</p> <p>3年間にわたるコロナ禍の中での学校運営は、教育の様々な場面で臨機応変の対応力が問われた一方、目の前の危機に対処していく過程は、未来に向けて必要な変化を推し進める絶好の機会でもあった。アフターコロナに向け、教職員の協力の下、新しい時代にかなったよりよい職業人教育の形をつくり上げたいと考えている。委員の皆様には、引き続き本校のサポーターとしての貴重なご意見を賜りたい、との挨拶が行われた。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認(資料1)</p> <p>委員長より諮ったところ、特段の修正意見はなく、承認された。</p> <p>3. 経過報告(資料2)</p> <p>・2022年度第2回委員会以降の主な経過について</p> <p>事務局長及び各担当者からの説明の後、全体を通して質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>4. 2022年度学校関係者評価報告書の確認(資料3)</p>

委員長より、前回委員会における各委員の総評や意見を加えた最終版との説明があり、質疑応答の後、原案のとおり確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 意見交換など

委員長より、各分野の教育課程編成委員会をテーマに取り上げてはどうかとの提案があり、各学科長の説明の後、委員から感想・意見が述べられた。詳細は別紙のとおり。

6. 2023年度の委員について

事務局より、伊藤委員、小林委員が今年度で退任されること、石川委員、篠塚委員が再任予定であることが報告され、伊藤委員より退任に当たっての挨拶があった。

引き続き、今年度で退任される橋本校長及び後任の川口理事長からそれぞれ挨拶があった。

7. 次回日程、その他

事務局より、次回日程を6月末に予定していることの説明があり、具体的には改めて調整することが了承された。

以上

2022 年度第 3 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

次第 3. 経過報告

・ 2022 年度第 2 回委員会以降の主な経過について

1. 学生の状況関連（説明者：榊原事務局長）

(1) 卒業関連

- ・ 3 月 15 日（水）に卒業式・修了式が行われた。

(2) 退学の状況

- ・ 目標値は達成する見込み。学科別では、医療秘書科は大きく減少した。
(退学防止に向けた活動)
- ・ 学生委員会の退学防止チームが中心となり、クラス担任、カウンセラー、事務局が連携して取り組んでいる。
- ・ 埼玉女子短期大学では、①学生の居場所づくり（「趣味の部屋」）、②Zoom を活用したカウンセリングや学生委員長・教務委員長による個別面談、③学費支給困難者への奨学金等の紹介などを行っている。本校でも②、③については対応しているが、①の居場所づくりという観点では、次年度からサークル活動を活発化していく計画を進めている。

2. 学生募集関連

(1) 入学試験及び出願状況

- ・ 3 年制の診療情報管理科は昨年を上回り好調である。
- ・ くすり・調剤事務科も昨年度からの上昇が継続している。

3. 教務委員会関連（説明者：渋谷教務委員長）

(1) 2022 年度教員研修計画・実績（資料 2-B）

- ・ 研修に参加する教員は増加傾向にある。
- ・ 受講費補助の申請はなかった。次年度に向けて積極的に活用してもらえよう、内容を改善していきたい。

(2) 2023 年度入学前指導プログラム（資料 2-C）

- ・ 3 月 6 日（月）にスクーリングを実施した。
- ・ 今年度はグループワーク、学生同士の交流を積極的に行うことができたとの意見が各学科から上がっている。

4. アンケート関連（説明者：事務局土屋）

- ・ 後期は、11 月 28 日～12 月 9 日に行った。
- ・ 次年度はアンケート項目の改定時期に当たるが、大きな変更は考えていない。学生にとって答えにくい質問項目に関して改定を予定している。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>研修には、基本的に学校から費用を頂いて参加していると考えてよいか。</p> <p><input type="checkbox"/>長期の研修は、その期間に複数回の研修があり、そこに参加する形か。資格は取れるのか。</p> <p><input type="checkbox"/>新しい情報を得るための研修に参加したときに、情報を伝達して組織の中で共有される仕組みはあるか。</p> <p><input type="checkbox"/>新しい分野のことは、伝達して共有する機会があったほうがよい。 今、DX人材が騒がれている中で、病院の医療DXはどのような状況になっているのか。</p> <p><input type="checkbox"/>専門DX員を置いて、IT技術による業務の見直しを進めている病院もある。その辺の情報をキャッチしながら必要な人材を養成するのも大事かと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>募集活動が大変な状況になっている。職業や学校の魅力をいかに知らせていくかが大事だと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>出願の状況が学科によって差があるが、専門学校全体のトレンドはあるか。例えば、くすり・調剤事務科が前年を超えているのは、病院の医療事務より調剤事務のほうが人気があるということか。</p> <p><input type="checkbox"/>高校生の募集活動を工夫された結果が出ているのだと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/>自己啓発費と研修受講補助費の2通りあり、有料の研修に参加した場合は、まずは自己啓発費を使い、足りない分を受講補助費として活用する形になる。</p> <p><input type="checkbox"/>東専各が実施している研修で、初任者や中堅を対象として複数回実施される。資格はなく、参加証明書を頂く形になる。</p> <p><input type="checkbox"/>研修参加報告書を学科長、校長に提出し、教務委員会で保管している。</p> <p><input type="checkbox"/>医療情報技師に関しては、これまでは希望者だけが受験していたが、次年度からは全員が受験するように変更した。</p> <p><input type="checkbox"/>参考として受け止めさせていただく。</p> <p><input type="checkbox"/>昨年、今年とくすり・調剤事務科は増加傾向にある。特に男性の志望者が多い印象を受けているが、要因の一つとして、オープンキャンパスの内容や資料の作り方を変えたことが考えられる。</p>

<p><input type="checkbox"/> 病院の事務職としては、情報分析力や診療報酬の知識を持って、提案できる人を求めている。それらを学べるのはどの学科になるのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 今年初めて卒業生を出す 1 年制の医療事務科の内定率が 100%になった。2 年制、3 年制、さらに大卒の方との競争の中で、志をしっかりとって活動した結果だと思う。</p> <p><input type="checkbox"/> 入学前指導プログラムはメリットが大きいと思うが、全入学生を対象にしていない学科について、今後の考えを聞きたい。</p>	<p><input type="checkbox"/> 医療秘書科、医療事務 I T 科、診療情報管理科、1 年制の医療事務科になる。医療秘書科の場合、学生はかなりの割合で医事課に就職する。</p> <p><input type="checkbox"/> みんな感じがよかったので、そこが決定打だったと感じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 将来的には全員対象に移行していきたい。管理科では 4 月に行うオリエンテーションで十分効果があると考えているが、将来的には全員に行うことも検討していきたい。看護科は、公募推薦の学生を対象に行っている。</p>
--	--

次第 4. 2022 年度学校関係者評価報告書の確認（資料 3 参照）

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 就職率、資格・免許の取得率、検定試験の結果など、具体的な学修成果を表した資料をこの報告書の中につけるのか。</p> <p><input type="checkbox"/> 結果の評価よりもプロセスの評価をするという位置づけだと理解する。</p>	<p><input type="checkbox"/> 今のところつけていない。</p>

次第 5. 意見交換など

○本校では、学校関係者評価委員会の他に、職業実践専門課程の認定要件となる教育課程編成委員会が年 2 回開催されている。そこで話題になっていることを紹介していただき、委員からそれに対する感想や意見をいただく形で進行したい。

（医療事務分野教育課程編成委員会の報告と委員からの感想・意見）

○第 2 回会議では、医師の働き方改革を進めるためには優秀な医療事務職員が必要。現在は、事務職員が足りず、よい人材が採れないとの話があった。募集に関しては、対策を検討すべき。教育研修については、計画的に系統立てた研修を受けさせ、それを記録に残しておく必要があるとのアドバイスをいただいた。

○医療事務 I T 科は、今後いかにして特色を出していくかが課題となっている。診療情報管理科は、2 年課程プラス 1 年の専攻科という形が今年度で終わり、来年 3 月からは 3 年制として入ってきた学生が卒業する。モチベーションの維持の仕方について委員の先生に指導いただきながら考えていきたい。

○今はスペシャリストが求められる時代なので、高い専門性を持つ人をつくっていかなければならない。

その土台として、専門分野の力も大事だが、自分の仕事の意義や経営への貢献、やりがいの部分を理解させて、将来のモチベーションにつなげていくことが理想だと思う。

本校の学生は優秀ですごく仕事ができる。卒業生で活躍している人、継続して頑張っている人がどれだけいるのか調べてみるとよいのではないか。

今学んでいる診療報酬も経営にダイレクトにつながっていく。学生のときから経営についてある程度関心を持ってもらえるとよいと思う。

(くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会の報告と委員からの感想・意見)

○本年度は、頂戴した意見に基づいて2年次に英語のカリキュラムを導入した。また、就職活動が早く、それまでに取得している資格の数が他校に比べて少ないとの指摘を受け、2024年度に向けて、2年生後期に取っていた資格を1年生後期までに取得できるようカリキュラムを再編している。同じく2024年度に向けて学生用のタブレット端末を導入し、登録販売者の国家試験の指導を強化していく。

○実際、登録販売者はどのような位置づけになっているのか。

○弊社の場合、売場のスタッフで店長候補になる者は、入社後、登録販売者を取ることが前提となっている。事前にとっていけば非常にありがたい。

(看護分野教育課程編成委員会の報告と委員からの感想・意見)

○看護科は指定規則上、意見をいただいて柔軟にカリキュラムを変えていくことができない。前回の委員会では、今年度から変わったカリキュラムの運営に当たっての考え方を示した。例えば、看護学校では、授業外の潜在的カリキュラムとも言える行事やクラスアワー的なものが多い。それをこの機会に授業として位置づけたり、不要なものは削除する。その一つとして、戴帽式の在り方を、行事ではなく、学生が看護観として書き残す形を目指している。

○学生が自ら取り組む時間をつくるのは大切だと思う反面、式典や行事、委員会活動等で人との関わりや役割分担、リーダーシップ、メンバーシップをつくっていくことも大事だと思う。戴帽式を学生とともに作り上げていくのは、すごく重要なカリキュラムだと思う。

(福祉分野教育課程編成委員会の報告と委員からの感想・意見)

○介護の現場は波が幾重にも重なって押し寄せてきている状況であり、中核的なリーダーシップが発揮できる職業人が求められている。それに即していく形でカリキュラムを組んでいる。

具体的には、AIやICTに対応するための科目の新設、外国人留学生の日本語能力の向上に向けた特別講習などを組んでいる。コロナに関しては実習に大きな影響があるので、情報を共有しながら実習の準備をして学生の理解度を深めていけるようなカリキュラムを心がけている。

学生には倫理観や人間力など、広く、深く様々な側面において学びを深め、体系的な学習を通してしっかりと身につけられるよう授業科目を設定し、カリキュラム全体を構造化している。

○今後、医療分野との連携という部分で、カリキュラムに関わる話はあるか。

○2019年度以降、「医療的ケア」という科目の修了が義務づけられている。医療行為に携わるものは免許の取得が必要で、福祉の資格は登録制なので、性質の異なるものが同居する形になる。医療領域やソーシャルワーク領域の方々と協働する中で、自分たちの役割や専門性を理解し、どのように発揮させていけばよいのか、苦心しているところがある。

○看護の場面では、看護補助者と看護師が協働しているが、役割分担は明文化されている。介護福祉士も明文化しているのではないか。倫理観や自分たちの責務ということをしっかり持って卒業できればよいと思った。

以上